

様式1 令和5年度 清瀬市立清明小学校 学校評価計画

学校の教育目標	育成を目指す資質・能力及び特色ある教育活動
明るく豊かな心を持ち 進んで学が児童の育成 ○よく見つめよく考える子 ○親切で思いやりのある子 ○健康でたくましい子	・自分も他の人も大切にし、お互いに助け合う児童及び主体的に学習に取り組む児童の育成
目指す学校像(ビジョン)	・児童の基礎的・基本的な学力を保障するための授業改善の実施
【目指す学校像】 皆(子供たち、教職員、地域・保護者)が笑顔になれる わが学校 1 子供一人一人が自分らしさを生かして、成長できる学校 2 教職員の個性や能力が発揮され、やりがいと誇りのもてる学校 3 「わたしたちの学校」と誰もが誇りに思い、保護者や地域と協働して子供を育てる学校	・地域の物的、人的教材を生かした教育活動を展開
【目指す児童・生徒像】 1 学習の基礎基本を身に付け、主体的に学び、自分の思いや考えを伝えられる子供 2 自分も相手も大切にできる気持ちで、言葉や態度で表すことができる子供 3 互いに協力して活動し、よりよい学校生活を創り出そうとする子供 4 すずんで運動に楽しみ、よりよい生活習慣を身に付け、心身共に健康な体をつくろうとする子供 5 何ごとにもねばり強く取り組み、最後までやりぬく子供 6 地域の一員であるという自覚をもって行動する子供	・持続可能な社会づくりに向けた教育活動の実施
【目指す教師像】 教育公務員としての自覚をもち、公正・誠実・謙虚な態度で信頼される言動ができ、常に児童と共に歩み、共学、共働、共遊で人間関係を深め、児童理解に努めることができる教職員。	・NPO法人と連携した補習学習「パワーアップタイム」の実施

前年度までの学校経営上の成果と課題

・基礎的・基本的学力の定着に向け、朝学習やパワーアップタイムの指導内容を見直し、年間計画を作成することができた。また、全職員での校内研究の実施により、児童一人一人の探求課題を大切にすることができてきた。  
 ・基礎的・基本的な学習内容の確実な定着が喫緊の課題である。教員が課題を自分事として捉え、課題に対し学校全体で組織的に指導を行う体制をつくる。

柱	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	取組指標(評価基準)	成果指標(評価基準)
確かな学力の向上	基礎的・基本的な学力を定着させる。	意図的・計画的な学習指導の実施	毎時間めあてを明確に示して、分かりやすい授業を実施する。児童全員が知識・技能を定期的に把握をする。	4 全学年全学級で実施 3 実施率80%以上 2 実施率60%以上 1 実施率60%未満	4 単元テストで、85%以上が80点以上 3 単元テストで、70~85%が80点以上 2 単元テストで、55~69%が80点以上 1 単元テストで、55%未満が80点以上
	主体的に学び、思考・判断・表現力を向上させる。	児童の主体的な学びを大切にした指導を行う。	具体物の提示やICT機器の活用、話し合い活動を取り入れるなど、児童の実態に沿った指導の工夫を行う。また、児童が自己の学習について振り返る時間を設ける。	4 全学年全学級で実施 3 実施率80%以上 2 実施率60%以上 1 実施率60%未満	4 児童の自己評価で、満足度90%以上 3 児童の自己評価で、満足度75%以上90%未満 2 児童の自己評価で、満足度60%以上75%未満 1 児童の自己評価で、満足度60%未満
豊かな心の育成	自他の命を大切に、互いに認め合える児童を育成する。	基本的な生活習慣の定着を図り、落ち着いた学習・生活環境を整えるために、挨拶を推進する。  いじめ未解決ゼロの学校にする。また、いじめの未然防止対策を強化する。	自己の存在を他に示す行為である「返事」。他者との心の交流の表れである「挨拶」。他者への思いやりの気持ちを表す「後始末」。この三つの指導の徹底を図る。  学期2回以上のアンケートやいじめ防止対策委員会を開催し、いじめの、早期発見、早期解決を図る。また、年2回実施のアセスを活用し児童の学級での様子を把握する。	4 教職員の取組評価がA実施率90%以上 3 教職員の取組評価がB実施率75%以上 2 教職員の取組評価がC実施率60%以上 1 教職員の取組評価がD実施率60%未満 4 実施回数年間8回以上 3 実施回数年間4回以上 2 実施回数年間2回以上 1 実施回数年間2回未満	4 児童の自己評価で、満足度90%以上 3 児童の自己評価で、満足度75%以上90%未満 2 児童の自己評価で、満足度60%以上75%未満 1 児童の自己評価で、満足度60%未満 4 児童の満足度の評価A(児童・生徒の80%以上) 3 児童の満足度の評価B(児童・生徒の50%以上~80%未満) 2 児童の満足度の評価C(児童・生徒の30%以上~50%未満) 1 児童の満足度の評価D(児童・生徒の30%未満)
	すすんで運動に楽しみ、よりよい生活習慣を身に付け、心身共に健康な児童を育成する。	健康学習や食育を推進し、よりよい食習慣、生活習慣の確立をする。  運動の特性に親しみ、運動の習慣を身に付けさせる。	養護教諭や栄養教諭と連携して、健康学習を年間4回以上実施する。また、毎日の給食指導や年間2回以上の食育授業を通して、正しい食習慣を確立する。  体育科の授業を始め、新体力テストの結果も参考にしながら指導の改善を図る。また、学校だよりで運動の日常化と生活習慣の改善について掲載する。	4 教職員の取組評価がA実施率90%以上 3 教職員の取組評価がB実施率75%以上 2 教職員の取組評価がC実施率60%以上 1 教職員の取組評価がD実施率60%未満 4 教員の自己評価で90%以上 3 教員の自己評価で80%以上 2 教員の自己評価で60%以上 1 教員の自己評価で60%未満	4 保護者の満足度が80%以上 3 保護者の満足度が70%以上 2 保護者の満足度が60%以上 1 保護者の満足度が60%未満 4 保護者の満足度が80%以上 3 保護者の満足度が70%以上 2 保護者の満足度が60%以上 1 保護者の満足度が60%未満
特別支援教育の充実	ユニバーサルデザインの視点を取り入れた環境づくりを推進する。	特別支援教室と連携して、ユニバーサルデザインなど児童の実態を考慮した教室環境を整える。	特別支援教室と連携して、ユニバーサルデザインなど児童の実態を考慮した教室環境についての情報共有を学期に1回以上行い、環境整備を行う。	4 情報共有を年間6回実施 3 情報共有を年間5回実施 2 情報共有を年間4回実施 1 情報共有を年間3回実施	4 教職員の達成度の評価A 3 教職員の達成度の評価B 2 教職員の達成度の評価C 1 教職員の達成度の評価D
	ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業力の向上を図る。	児童一人一人に応じた指導を行うため、特別支援教室と連携して、教育活動の充実に努め、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業改善を推進する。	特別支援教室担任等と連携し、児童の実態を適切に把握するとともに、教員間で情報を共有し、個に応じた支援方法や指導を充実させる。	4 教員の自己評価で90%以上 3 教員の自己評価で80%以上 2 教員の自己評価で60%以上 1 教員の自己評価で60%未満	4 保護者の満足度が80%以上 3 保護者の満足度が70%以上 2 保護者の満足度が60%以上 1 保護者の満足度が60%未満
本校の特色	地域と一員であるという自覚をもって行動する児童を育成する。	生活科や総合的な学習の時間を要として、問題解決的な学習や体験的な活動を通して、自らの考えを深めたり広げたりできる力を育む。	地域の豊富な教材を活用し、体験的な活動を取り入れることで、児童が設定した課題について探究する学習を展開できるような授業改善を行う。	4 教職員の取組評価がA実施率90%以上 3 教職員の取組評価がB実施率75%以上 2 教職員の取組評価がC実施率60%以上 1 教職員の取組評価がD実施率60%未満	4 保護者の満足度が80%以上 3 保護者の満足度が70%以上 2 保護者の満足度が60%以上 1 保護者の満足度が60%未満
		学校支援本部と連携し、地域の教育資源を活用したESD教育を推進し、地域愛を育む。	地域の教育資源を活用した学習を全学年で2回以上行い、地域に親しみをもたせる。また、今あるものをよりよく未来につなげる心を育成する。	4 全学年で、地域の人材を活用 3 3分の2以上の学年で、地域の人材を活用 2 3分の1以上の学年で、地域の人材を活用 1 地域の人材の活用が未実施	4 児童の自己評価で、満足度90%以上 3 児童の自己評価で、満足度75%以上90%未満 2 児童の自己評価で、満足度60%以上75%未満 1 児童の自己評価で、満足度60%未満